

寒が戻り雨や雪が降っても、時間は確実に進んでいます。校長室前に咲いたしだれ梅の花を眺めながら、しみじみと旅立ちの季節の到来を感じるこの頃となりました。

本日ここに、令和6年度 東京都立大森高等学校 全日制課程 第77回卒業式を挙行するにあたり、御多用の中、御臨席賜りました、御来賓の皆様には、謹んで御礼申し上げます。

ただいま卒業証書を授与した三年生の皆さん、改めて卒業おめでとう。ここに至るまでの皆さんの努力を讃えつつ、在校生や先生方と共に、笑顔で送り出したいと思えます。

保護者の皆様におかれましては、今まで様々な心配や苦勞がおありだったとお察しいたします。今日、この晴れの日を迎えられましたこと、校長として共にお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に御理解御協力をいただき、ありがとうございます。改めて御礼申し上げます。十八歳で成人となるお子さんた

ちですが、いくつになっても家族や友人知人の支えがあつてこそ、安心して進んで行けるものです。どうか、これからも良い距離感を保ちつつ、温かく見守ってくださいませよう、お願い申し上げます。

さて、大森高等学校の校訓は、「敬愛 誠実 努力」です。生徒諸君には、機会あるごとに伝えていますが、この三つの言葉が、人間としていつも意識し続けるべき大切な力、言い換えれば「人間力」の象徴である、と常々私は考えています。平和な日常だけでなく、何か非常事態が生じた時にこそ、一人一人の人間力が試されます。今日、本校を卒業する皆さんが、自分の持てる力を発揮し、誰かとその力を合わせて生きていくために、八十年以上に亘り先輩方から受け継がれてきた、「敬愛 誠実 努力」というこの校訓を忘れずにいてほしいと願っています。そうすれば、社会の荒波に揉まれても、目指す

方向を見失うことなく、進んでいくことができ
るに違いないからです。

ところで、校訓とは別に、皆さんに紹介した
言葉があります。教育社会学者の広田照幸^{てるゆき}
という方が、その著書の中で「経験は狭い、人生
は短い、知が経験の質を変える」と述べています。
「知」とは、物事を知る、という時の知の字です。
皆さんは、この大森高校で多くの「知」を得てき
たはずです。これは、学校という場所で学ぶ時
間を通して、人類が今まで築いてきたこの世界
が、どのようなものであるのかについて、様々な^{なび}
教科を始め、行事等の教育課程という形で身に
付けてきた、ということです。私たちは、自分が
属する社会の中で、また、日々の生活の中で、
経験から直接学ぶこと、身に付けることも、も
ちろんたくさんあります。しかし、分身の術で
も使わない限り、自分一人が身をもって経験で
きる事柄には限りがあります。だからこそ、私

たちは学校という場所で、教育を通して学ぶのです。

つい数日前、私は三年生の皆さんが提出した進路活動に関するアンケートの報告を受けました。そこには、勉強はすべきだ、とか、授業と考査を頑張ったほうがいい、とか、いやだと思っても休まず学校には行くべきだ、などの実感のこもった言葉が並んでいました。私は、三年生の多くが、「知」を得ることの大切さに気付いてくれていたのだ、と少しうれしく感じると共に、それが後悔の思いでなければいいなあ、とも感じました。実は、先ほどの広田氏の著書のタイトルは、『学校はなぜ退屈でなぜ大切なのか』というものです。本校での学校生活は皆さんにとって退屈なものだったでしょうか。もし退屈であったとしても、それは当然であり、且つ、必要で大切な時間であったのです。皆さんが学校で得た「知」は、これからの皆さんの経験の質を深めたり、高めたりすることに、必ずつながっていきます。そして、自分の身の回りの世界だけでは存在し

ない「文化」に触れる機会を学校生活で得たからこそ、皆さんの世界が広がり、今後の経験の質を変えていくことができるのです。「文化」とは、「知」の総合に他なりません。しかし、自分の身近でないものについて、また、自分にとって楽ではないことを強いられる場所について、私たちは退屈だ、と感じてしまいがちです。それでも、積極的に「知」を得てきたか否かは、先になつてから、人として大きな差を生むことが往々にしてあるのです。

今年度の始業式や終業式で、私は皆さんに「知性」を磨きなさい、という話をしてきました。知性を磨くとは、「知」をもとによく考えることを抜きには成立しません。なぜなら、「経験は狭い、人生は短い、知が経験の質を変える」ものだからです。そして、知性を磨くのに必要とされるのが、「敬愛 誠実 努力」に象徴される人間力です。「敬愛 誠実 努力」を地道に実行できる人間力は、あなたの知性を証明する力とな

って、これから世の中で生きていく時に役立って
いきます。その力とは、「品性」と言い換えること
もできると思います。知性と品性とを備えた人
であること、それがグローバル化とDX化が進み、
不確定であいまいだと言われる現代を生きてい
くために、過去よりも、より一層求められてい
る力である、と言っても過言ではありません。

形あるものはいつか壊れていくこともありま
す。しかし、身に着けた知性と品性とは、誰に
も奪うことができず、決して減びることはあり
ません。卒業生となる皆さんは、この大森高等
学校で過ごした時間を誇りに思い、今日までの
自分に自信を持ち、明日からの人生を、堂々と
生きて行ってください。見送る在校生諸君には、
先輩が実感を以て示してくれた、「知」を得る
大切さを、卒業までの残りの時間で追求してい
って欲しいと思います。繰り返します。「経験は
狭い、人生は短い、知が経験の質を変える」ので

みちのり

す。知性と品性を身に付ける道程には、残念ながらゴールはありません。それが人生だからです。若い皆さんにとっては、その道程はなおさら長く感じるものかも知れません。そのうちのたった数年間でしたが、寄り添い、送り出すことができる今日を、私は大変うれしく誇らしく感じています。

結びに、卒業生の皆さんの今後の健康と幸せを祈り、更なる活躍と、本校で築いたよき人間関係が続くことを願い、式辞といたします。

令和7年3月7日

東京都立大森高等学校長 池田 美穂